

平成15～17年度 調査事業実施状況

(1) 家畜伝染病予防関連事業

1) 全国的サーベイランス(発生予察対象疾病)

ア) アカバネ病、アイノウイルス感染症、チュウザン病、イバラキ病、牛流行熱及びブルータング

ア) 検査材料：未越夏、ワクチン未接種牛血清(6月下旬、8月中旬、9月下旬、11月中旬の4回追跡調査)

家保名	平成15年			平成16年			平成17年		
	市町村数	戸数	頭数	市町村数	戸数	頭数	市町村数	戸数	頭数
松江	9	15	23	7	11	20	3	9	20
出雲	4	4	20	5	5	20	3	4	20
江津	4	5	20	4	6	20	4	6	20
益田	6	7	15	6	7	15	4	5	16
計	23	31	78	22	29	75	14	24	76

イ) 検査方法：ウイルス抗体検査(ブルータング：ゲル内沈降反応、その他ウイルス：中和試験)

ウ) 事業実績：抗体陽性率の推移(%)

ウイルス	平成15年				平成16年				平成17年			
	6月	8月	9月	11月	6月	8月	9月	11月	6月	8月	9月	11月
アカバネ	53.8	32.9	18.4	4.0	78.7	75.7	47.3	25.7	79.0	63.2	39.5	14.9
アイノ	58.9	23.7	14.5	1.3	62.7	41.9	13.5	1.4	55.3	39.5	35.5	37.8
チュウザン	28.2	7.9	0.0	0.0	62.7	50.0	14.9	0.0	80.3	51.3	42.1	14.9
イバラキ	52.6	1.3	0.0	0.0	46.7	37.8	31.1	0.0	40.8	36.8	28.9	24.3
流行熱	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ブルータング	16.7	0.0	0.0	0.0	21.3	0.0	0.0	0.0	29.0	5.3	11.8	10.81

陽転ウイルスおよび頭数 平成15年度 アカバネウイルス 3頭(松江家保管内)

平成16年度 アカバネウイルス 5頭(松江家保管内)

平成17年度 アイノウイルス 15頭(松江、出雲、江津家保管内)

ブルータングウイルス 5頭(江津、益田家保管内)

イ) 高病原性鳥インフルエンザ

ア) 検査材料：平成15年度 10月より県下1農場、10羽のクロアカスワブ 合計50羽

平成16年度 4～10月まで平成15年度と同じ 小計70羽

11月より県下4農場(1農場/家保)、10羽/農場のクロアカスワブ、血清

小計 200羽 合計270羽

平成17年度 県下4農場(1農場/家保)、10羽/農場の気管スワブ及びクロアカスワブ、血清

合計 480羽

イ) 検査方法：発育鶏卵尿膜腔内接種によるウイルス分離、ゲル内沈降反応による抗体検査

ウ) 検査成績：鳥インフルエンザウイルス分離および抗体 全例陰性

ウ) ウエストナイル感染症(野鳥)

ア) 検査材料：死亡野鳥の脳

平成15年度 9羽、平成16年度 2羽、平成17年度 19羽

イ) 検査方法：PCR（動物衛生研究所へ材料送付）

ウ) 検査成績：全例陰性

2) オーエスキー病清浄性確認

ア) 検査内容：家保においてラテックス凝集反応法により抗体保有が疑われた豚血清
県外出荷繁殖候補豚の陰性確認検査（括弧内頭数）

平成15年度 0（74）頭、平成16年度 1（92）頭、平成17年度 0（78）頭

イ) 検査方法：中和試験

ウ) 検査実績：全例1倍未満

3) 家畜異常産防除対策

a) 検査実績：平成15年度 乳用牛 9件36例、肉用牛 39件91例

平成16年度 乳用牛 7件36例、肉用牛 33件83例

平成17年度 乳用牛 13件43例、肉用牛 25件62例

b) 検査項目：病理組織学的検査、細菌学的検査

ウイルス学的検査：血清免疫学的検査 - アカネ、アイノ、チュウソウ、ブルタング、ハラキ、牛流行熱
IBR、BVD、PI3、Peaton、ハルホなど

ウイルス分離検査、ウイルス遺伝学的検査

寄生虫学的検査：材スラ

c) 検査成績：家畜保健衛生所へお問い合わせ下さい

4) 豚コレラ撲滅対策（清浄度分析確認）

（ア）抗体保有状況調査

ア) 検査材料：平成15年度 繁殖豚血清 186頭、肥育豚血清 439頭

平成16年度 繁殖豚血清 141頭、肥育豚血清 1,077頭、いのしし血清 3頭

平成17年度 繁殖豚血清 54頭、肥育豚血清 659頭

イ) 検査方法：中和試験

ウ) 検査実績：全頭感染抗体認めず

（イ）野外ウイルス検査

ア) 検査内容：平成15年度 ヒネ豚 5戸11頭、平成16年度 ヒネ豚 2戸3頭、平成17年度 ヒネ豚 2戸16頭

イ) 検査方法：ウイルス分離、中和試験

ウ) 検査実績：全頭陰性

5) 高病原性鳥インフルエンザモニタリング

ア) 検査材料および方法：県下全域の鶏気管スワブ、クロアカスワブ、新鮮便、血清および死亡野鳥等

平成15年度 ウイルス分離（発育鶏卵尿膜腔内接種） 1,800例

PCR 306例

抗体検査（ゲル内沈降反応） 460例

* 内 死亡野鳥羽数 131羽

平成16年度 ウイルス分離 3,859例

PCR 23例

抗体検査 1,141例

* 内 死亡野鳥羽数 22羽

平成17年度

ウイルス分離	4,329例
PCR	125例
抗体検査	1,999例

* 内 死亡野鳥羽数 34羽

(検査数は全国的サーベイランス(伝染病予防事業)および動物由来感染症監視体制整備事業(平成15,16年度)、高病原性鳥インフルエンザ危機管理対策事業(平成17年度県単事業)対象も含む総数。)

イ)検査成績:全例鳥インフルエンザウイルス分離(PCR)陰性および抗体陰性

6)ヨーネ病検査

目的:本病は慢性の下痢など起こし生産性阻害要因として重要な疾病であることから3年に1回の検査が義務付けられているとともに、汚染地域からの導入や牛の移動により感染牛が県内に侵入するのを防ぐために検査を実施している。また、県内において家保の管轄を越えた牛の移動時、本疾病を疑う際に検査を実施している

検査頭数:平成15年度 527頭、平成16年度 793頭、平成17年度 1,208頭

検査成績:平成15年度は、乳用牛 1頭をヨーネ病患者として摘発。

平成16年度は、乳用牛 4頭を摘発。平成17年度は、乳用牛13頭を摘発。

(2)家畜衛生対策関連事業

1)診断予防技術向上対策事業(平成15,16年度)

目的:家畜の伝染性疾病(PMWS)の診断の迅速化・高感度化・予防技術の高度化を図る。

検査方法:ヒネ豚を材料に細菌検査、病理組織検査、免疫組織学的検査ウイルス(PCV1および2)、豚パルボウイルス、PRRSウイルスおよびマイコプラズマ(Mhp、Mhr)のPCR検査を実施する。

(平成16年度はPCV2、PRRSのみ実施)。

検査頭数:平成15年度 2戸3頭、平成16年度2戸36頭

検査成績:平成15年度 PCV1 陽性1頭、PCV2 陽性5頭、豚パルボウイルス陽性0頭、PRRSV 陽性4頭、Mhp 陽性0頭、Mhr 陽性1頭 PMWS豚を認めず。

平成16年度 PCV2 陽性1頭、PRRS 陽性1頭、PCV2-IFA抗体 全頭陽性、PRRS-ELISA抗体 11頭陽性 PMWS豚を認めず。

2)動物由来感染症監視体制整備事業

目的:人畜共通感染症について国が指定した病気の動物における浸潤調査を実施し人への感染を防除する

(ア)鳥インフルエンザウイルス(平成15、16年度)

ア)検査材料:県下全域の養鶏農家等で飼養されている鶏の気管スワブ、クロアカスワブ、新鮮便、血清死亡野鳥 (*前述鳥インフルエンザモニタリング検査に含まれる)

イ)検査方法:発育鶏卵尿膜腔内接種によるウイルス分離、遺伝子検査(PCR)、抗体検査(ゲル沈)

ウ)検査成績:全例分離(PCR)および抗体陰性

(イ)豚インフルエンザウイルス(平成17年度)

ア)検査材料:病性鑑定豚2頭の肺、鼻腔スワブ

イ)検査方法:発育鶏卵羊膜腔内接種によるウイルス分離

ウ)検査成績:全例分離陰性

(ウ) 病原性大腸菌0-157

- ア)対象疾病：牛糞便中の病原性大腸菌（0157等）を保有状況調査
イ)検査材料：県下の搾乳および肥育農場における牛の糞便72例
ウ)検査方法：農林水産省畜産局長通達に基づく分離培養法
エ)検査成績：分離陰性

3) 鶏卵衛生管理体制整備事業

- ア)検査内容：家保で実施したサルモネラ検査で分離されたサルモネラ菌の精密検査（血清型決定）を実施
イ)検査実績：平成15年度は、1件4例の検査を実施し、*Salmonella* Montevideoと同定。
平成16年度は、5件27例の検査を実施し、*Salmonella* Montevideoと同定。
平成17年度は、3件9例の検査を実施し、*Salmonella* Montevideoおよび*S. Othmarchen*と同定

4) 動物用医薬品危機管理対策事業

薬剤耐性菌の発現状況検査

目的：抗菌性物質の乱用等により薬剤耐性菌が発現する危険性があることから、家畜等の糞便材料から特定菌種を分離し耐性菌の発現状況を調査する。

検査成績：平成15年度；カビ[®] D[®] ターを対象として実施。31検体の糞便から14株を分離し検査を実施した。
平成16年度；カ[®] 細菌を対象として実施。32検体の糞便から2株を分離し検査を実施した。
平成17年度；腸球菌を対象として実施。27検体の糞便から42株を分離し検査を実施した。
バンコマイシン耐性腸球菌は検出されなかった。

検査結果からカ[®] 細菌、腸球菌ともに著しい薬剤に対する耐性の発現を認めなかった。

動物用医薬品の品質検査

内容：県内の動物用医薬品販売業者から国が定める品目を収去し、性状検査ならびに有効成分の定量検査を実施する。

成績：平成15年度；合成抗菌剤2品目検査を実施。有効成分含量に異常なし。
平成16年度；サルファ剤3品目検査を実施。有効成分含量に異常なし。
平成17年度；金属化合物製剤3品目検査を実施。有効成分含量に異常なし。

5) 特選しまね和牛肉生産拡大事業

- ア)検査内容：肥育牛の血清中ビタミンA・E濃度検査
イ)検査実績：平成15年度実績 検体数 2,074例
平成16年度実績 検体数 1,404例
平成17年度実績 検体数 1,540例